「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「放課後子ども教室推進事業」（宮城県石巻市）

取組の概要や経緯

市内小学校区において、公共施設等を活用し、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するため平成25年度に和渕小学校区をモデル地区として開始した。

和小っ子クラブ：
稲の収穫（バケツ水稲）

チャレンジキッズinへびた：
百人一首体験

放課後子ども教室Bremen：
ボルダリング体験

内容

◎和小っ子クラブ（平成25年度より実施）
実施17回。1年生から3年生までを対象として年度初めに参加者を募集し、木曜日の放課後に地域ボランティア等を講師として体験活動を行った。今年度もコロナ感染症対策を行いながら隔週での実施となった。

◎放課後子ども教室Bremen（平成29年度より実施）
実施35回。NPO法人放課後こどもクラブBremenが主体となって、体験活動や創作活動などを行った。

◎チャレンジキッズinへびた（令和4年度より実施）
実施9回。MKSC2012が主体となって、学習支援やスポーツ活動、多様な体験活動を行った。毎回、専門家を招聘し、子どもたちの興味・関心を高めながら有意義な活動を実践した。

◎チャレンジキッズinこうよう（令和5年度より実施）
実施10回。MKSC2012が主体となって、学習支援やスポーツ活動、多様な体験活動を行った。

ポイント

①和小っ子クラブとチャレンジキッズinへびた＆こうようは年度始めに参加児童を募集し実施。異学年交流を図り、班を編成し活動する。
②Bremenの活動は実施ごとに参加者を募って活動する。
③コーディネーターが中心となり、ボランティアの役割を明確にして活動する。

成果

地域の中で子どもたちに様々な体験・交流・学習活動の機会を提供することにより、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を育むことができている。異年齢交流の場にもなっており、人とのかかわり方や思いやりの心等を学ぶ場にもなっている。

子どもたちのために、遊びや体験活動等を計画し、地域コミュニティの充実を図りながら安心・安全に活動できる居場所を提供することができた。

◇石巻市放課後子ども教室実施回数・参加者数（３月末現在）　※（　）は令和４年度

事業名	実施回数	児童		ボランティア	
		登録者数	平均参加者数	登録者数	平均参加者数
和小っ子クラブ	17回	17人（16人）	13．8人（15．6人）	18人（17人）	10人（9．6人）
子ども教室Bremen	35回	回ごとに募集	12．7人（10．7人）	14人（14人）	4．1人（4．5人）
チャレンジキッズinへびた	9回	20人	14．3人（16．8人）	11人（9人）	3．4人（4．3人）
チャレンジキッズinこうよう	10回	17人	11．8人	18人	5．6人

今後の方向性

・子どもたちに多様なプログラムを提供できるように、地域人材の活用の他、関係機関との連携を図った取組を模索する。
・各地区で持続した取組ができるように、ボランティアの確保に努める。また、他地域での教室開催へ向け、人材の発掘に努める。

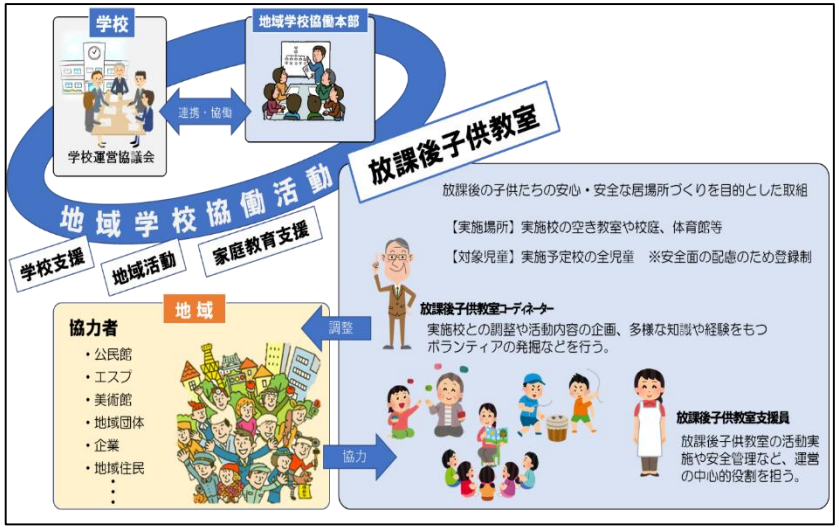
「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「塩竈市放課後子供教室」（　宮城県塩竈市　）

取組の概要や経緯

令和３年度からのコミュニティ・スクール導入に合わせて、市内小学校の子供たちの安心・安全な居場所づくりを目的に、放課後子供教室を開設し、令和４年度、市内６校に開設した。

放課後子供教室支援員の他に、体験活動の講師、学習支援、見守りなどにおいて、地域の方々の参画を得ながら活動の充実を図っていく。



内容

子供たちは、地域の方々や保護者などの学習支援や見守りの支援により、宿題や自主学習に取り組む。

また、毎月一度、地域で活躍する方や団体等の協力により、運動、創作、遊びなどの体験活動を実施する。

地域住民との交流活動等の機会により、地域で子供たちを育む環境を充実させ、子供たちの学びを支えていく。

ポイント

〇宿題をするだけでなく、遊びの時間では読み聞かせやクイズ、折り紙、昔遊び等に取り組んでいる。
〇活動内容は、子供自身が選択する。
〇放課後子供教室コーディネーターが体験活動の企画をしている。

成果

・みんなで学ぶ環境と雰囲気があり、同級生同士や異年齢による教え合いがある。

・遊びの時間では、各自が興味のあるものに取り組むことができ、子供たちの主体性が育まれている。

・コーディネーターや支援員が地域住民の参画を促すことで、協力者が増えるだけでなく、地域住民の生きがいの場となっている。

今後の方向性

・各校の学校運営協議会や地域学校協働本部との連携

・地域コーディネーターによる幅広い地域住民、団体などの参画の調整

・学習支援ボランティアの確保

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域学校協働活動の取組事例

「地域の力でつくる子どもたちの放課後」　（宮城県白石市）

取組の概要や経緯

平成17年度に斎川小学校区で「地域子ども教室推進事業」として行ったのを始まりに、児童クラブへの移行、小学校の統廃合を経て、令和5年度は市内3小学校区で実施している。地域住民がコーディネーター、スタッフとして活躍している。

内容

市内子ども教室を総括する「コーディネーター」を配置し、活動を充実させている。平成30年度からは、**児童クラブ一体型、連携型**を実施している。連携型の放課後子ども教室は閉校した学校の行事として行われていた伝統文化体験を、統合した小学校の子ども教室で体験活動として行っている。一体型の教室は、学習支援、運動遊び「ムーブメント」、絵本の読み聞かせ、造形活動、など様々なプログラムを実施している。

コロナ禍により、子どもたちの体験の場が減っている状況のなか、感染対策を徹底し、各教室が地域の特色や実情に合わせて、特色あるプログラムを実施することで、子供たちの放課後の居場所づくりを行っている。

ポイント

①各教室ごとに**地域の伝統文化や人材を活かし**、特色あるプログラムを実施した。
②スタッフ会議を実施し、スタッフ同士の**感染対策と危機・安全管理対策**の共有を図った。

成果

- 特色あるプログラムを体験することで、家庭内での子どもと保護者のコミュニケーションにつながった。
- スタッフ合同会議を開催し、感染症対策・安全管理など課題を話し合い、対応について考え合えたことにより、コロナ禍の中、子どもたちだけでなく、スタッフにとっても安心して活動できる場がつくられた。
- 地域の活性化や地域住民の生きがいづくりに繋げることができた。

今後の方向性

- 講師の派遣等を積極的に活用して、子どもたちにとって貴重な体験となる活動を展開していく。
- 継続的に活動を行うために、スタッフや学校との連携・協力体制を話合いを通してより強化していく。
- 子どもたちにとって安心、安全な居場所づくりを心掛ける。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域ぐるみの教育支援」（宮城県登米市）

取組の概要や経緯

学校・地域教育力向上対策事業では、旧町域単位に協働教育コーディネーターを配置し、学校と地域ボランティアをつなぐことで地域全体で児童・生徒を育む体制を構築している。

放課後子ども教室では、放課後児童の安全・安心な居場所づくりのため、地域住民の参画を得て実施し、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

内容

①学校・地域教育力向上対策事業
　地区内の小中学校へ支援ボランティアの派遣や市内10中学校でキャリアセミナーの調整など、地域と学校の連携を円滑にしている。

②放課後子ども教室
　地域住民の参画を得て、スポーツや文化活動などの体験活動を行っている。

米川の水かぶり事前学習

米谷小学校5年田植え

放課後子ども教室　茶道体験

放課後子ども教室　ジャンケン

ポイント

①統括コーディーネーターを中心に協働教育コーディネーターが連携・協力し、教育活動を支援している。

②学校の授業にはない体験活動や、異学年及び地域住民との交流を行っている。

成果

①コーディネーターが学校と地域をつなぐことで、教職員のみでは難しい登下校時の見守り活動や授業の支援など、多くのボランティアが継続的に教育活動へ関わることができた。

②地域住民及び異学年との交流を通して、児童の豊かな心の発達や健全な育成が図られた。

放課後子ども教室　講師あて寄せ書き

今後の方向性

①ボランティア研修会を開催するなど、ボランティア同士の交流の機会を設けることで意識醸成を図り、継続的に学校及び児童・生徒を支援できる体制づくりを推進する。

②実施の仕方について、まだ手探りな部分もあるため、放課後子ども教室担当者会議を行うほか、共有フォルダ等を作成し、情報共有に努める。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「できることを、できるときに、できるところから、みんなで育もう栗原っ子」（宮城県栗原市）

取組の概要や経緯

○放課後の小学校を活用し、子供たちの居場所を設けるとともに、地域の方々の協力を得て、地域に根ざした多様な体験活動や地域住民との交流活動の機会を提供することで、子供が自ら学ぶ力を身に付け、地域で子供を育む環境を支援している。

内容

○地域人材を活用して、多様な体験活動を実施している。特に、こちらから与えるだけでの支援ではなく、子供達が自ら試行錯誤をして主体的に取り組める内容とした。

ポイント

○今年度は栗原市家庭教育支援チームに協力をいただき、６月から１２月にかけ、瀬峰小学校を会場に、短時間で簡単にできる物づくりを実施した。
○放課後子ども教室を実施する体験活動の際に、放課後児童クラブの児童も参加できる一体型の活動を目指し、広く参加者を募って実施した。
○開催に向けては、大崎生涯学習センターの社会教育指導員から物づくりのアイデアを提供していただいた。
○実施後には、保護者や友だちとも楽しめるよう、作り方を記載した紙を配布した。

成果

○参加した子供達には大変好評で来年度も開催を望む声が多くあった。また、開催校の校長先生を初めとした先生方にも好評で、今後のさらなる活動に期待された。
○持ち帰った工作物や作り方の紙をもとに、保護者や兄弟とものづくりをしたとの声も聞かれ、家族のふれあいにも寄与することができた。

今後の方向性

○開催回数を今年度と同じ程度にし、多様な体験活動と地域住民との交流活動の機会を提供していくとともに、今後も放課後子ども教室が実施する活動に放課後児童クラブの児童が参加できる一体型の活動としていく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「大河原町放課後子供教室推進事業」

取組の概要や経緯

〇様々な体験活動を通して、地域住民との交流や豊かな心を育む環境づくりや、家庭学習の定着化を目的とした放課後子供教室推進事業を「宮城県学校・家庭・地域連携協力推進事業」の委託を受け実施。本町では平成17年から実施している事業である。

内容

町内３小学校区で実施

〇大河原小学校放課後子供教室（小学１～３年生）２６回開催
　学習支援、講師による特別教室（理科実験教室、仙台大学学生とのレクリエーション活動等）

〇大河原南小学校放課後子供教室（小学１～６年生）５９回開催
　ＡＣＰ活動、伝統文化継承活動、野外体験、キラキラツリー作り、茶道体験、百人一首体験ほか

〇金ケ瀬小学校放課後子ども教室（小学１～３年生）３８回開催
　ハンドベル演奏、太鼓演奏、科学実験教室、七夕飾り作り、百人一首体験、ほか

ポイント

・町内すべての小学校区で実施されており、スタッフも様々な特技を持った人材が揃っている。

・各教室のスタッフが集まり、情報交換や事業の反省を行うスタッフ会議等を開催し、各教室でのプログラムの充実化を図っている。

成果

〇大河原小学校放課後子供教室
　宿題や自主学習等の学習支援を重点的に実施するほか、仙台大学レクリエーション部による体験型プログラムや理科実験教室などの特別教室を実施し、好評を得ている。

〇大河原南小学校放課後子供教室
　児童クラブとの連携型として実施。ＮＰＯ法人キハト会に業務委託し、幅広い体験活動を行っている。また、エコ活動（ごみ拾い・分別）や防災学習も実施している。

〇金ケ瀬放課後子供教室
　児童クラブとの連携型として実施。地域の特色を生かしたプログラムを特徴としている。七夕飾り制作は、完成した七夕飾りをみやぎ県南中核病院に寄贈している。

今後の方向性

〇多彩や体験型プログラムやレクリエーション活動を重点に実施していきたい。

〇スタッフの高齢化や固定化が進んでおり、コーディネーターを含めたスタッフの後任育成や選考、運営体制の見直しを検討していく必要がある。

〇それぞれの小学校区で行っている特色を生かし、現在の内容をさらにブラッシュアップをしていきたい。

また、参加児童や保護者アンケートでいただいた意見や要望を基に、改善や更なる充実を図っていきたい。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」（学校を核とした地域力強化プラン）（学び支援コーディネーター等配置事業）の取組事例

「亘理町放課後子供教室『放課後楽校』」（宮城県亘理町）

取組の概要や経緯

東日本大震災後，町内の各小学校や近接する社会教育施設を主な会場として，在校するすべての児童を対象にした取組を再開・新設している。

地域住民や各地区交流センター，各まちづくり協議会員等，様々な立場の方が参画し，活動ボランティアとして企画・実践を行っている。

内容

〇各校に2～3名ずつ，コーディネーターを配置し，地域住民等と共に，年間15回の活動内容を検討し，放課後の時間に参加申込みをした児童（各校30名程度）と様々な体験活動を行う。
（レクリエーション，制作活動，昔遊び，ニュースポーツ，陶芸，料理，書道，読み聞かせ　等）

〇各教育活動推進員が作成した計画書を基に児童と楽しく関わりながら実践する。

〇年3~4回，「放課後子供教室連絡協議会」を実施し，活動の反省や実施内容の検討，担当するスタッフの決定等を行うと共に，様々な情報交換を行いながらより良い活動を目指して意見交換を実施する。

ポイント

①新型コロナの感染防止策を毎回徹底して，活動を行う。
②参加児童に多様な体験ができるように，毎回工夫を凝らした多様なプログラムを計画
③様々な趣味や特技を有している地域住民の自己実現の場の提供
④地域住民が主体的に協働することを可能とするコーディネーターの存在
⑤よりよい事業運営の実現を可能とするコーディネーター会議の実施
⑥行政や地区交流センター，まちづくり協議会と連携した多様な学びの機会を提供する。

成果

・活動ボランティアとして参加している多くの住民が，事業の趣旨を深く理解し，地域コミュニティーの再生や児童育成への思いに対して高まりや深まりが感じられる。
（R5調査：スタッフとして「活動に参加して良かった」との回答が100%）

・学校や家庭では味わうことが難しい多くの体験活動に取り組めるため，参加児童は，大きな満足感が得られるだけでなく，他学年児童やスタッフ等との人間関係の広がりも見られた。（R5調査：「活動に参加して良かった」と回答した児童が100%，保護者100%）

今後の方向性

・現在，町内に6校ある小学校のうち5校で開校。残り1校は，小規模特認校の特性を生かし，本事業で連携を強めた地域人材を紹介し活動の幅を広げたい。

・行政や各地区交流センターや各まちづくり協議会との連携を一層充実させ，「地域学校協働本部」にて育みたい子供像の共有化を行う。

・児童館や放課後児童クラブとの連携も一層充実させ，各校の実情に応じた合同活動の実施を重ね，一体的運用の取組を充実させる。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「まつしま放課後子ども教室」（宮城県　松島町）

取組の概要や経緯

・放課後等の児童の安全・安心な活動拠点を確保し、地域ボランティアの参画を得ながら、児童の健全育成を推進するとともに地域の活性化を図ることを目的に実施。
・令和4年度に引き続き「学習支援」と「体験遊び」を隔月で実施。児童・保護者のニーズから、昨年度より「体験遊び」の回数を増やした。

読み聞かせ

ジュニア・リーダーと遊ぼう

内容

・町内三つの小学校で、各校を会場に月曜日に開催（各校年間8回設定）。
・宿題や自主勉強を行う「学習支援」と、地域の教育資源やスタッフの得意分野を活かした「体験遊び」を実施。活動を通じて、異学年やスタッフとの異年齢交流が生まれるよう縦割り活動を導入するほか、松島の地域や文化に愛着を持つことができるよう工夫した。
・午後4時までは自由下校。午後4時30分まで参加する児童は、保護者の迎えがある場合のみ利用できる。

伝統芸能体験（和太鼓）

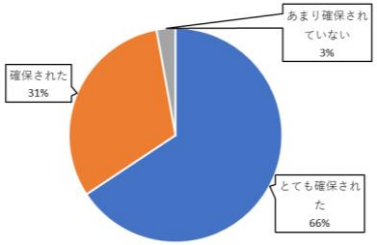
工作活動（新聞紙スリッパ）

ポイント

①「体験遊び」では「伝統芸能体験」「ミニスポーツ大会」「ドッヂビー大会」「工作活動」を行った。また、「学習支援」の際にもALTによる「英語絵本読み聞かせ」や地域サークルによる「読み聞かせ」（低学年向け）など実施し、地域の教育資源（人材、文化など）に楽しみながら親しむことができるよう工夫した。
②「3校合同イベント」を夏休み中に開催し、ジュニア・リーダーの主導でレクリエーションや、工作を実施した。活動は学校混合でのグループワークとし、学校の垣根を超えた交流が生まれた。

成果

・将来的にスタッフ主体で事業運営を行えるよう、活動内容の企画や活動に必要な準備の際にスタッフが関与するよう促した。
・活動内容に関わらず、教室の序盤で宿題を行う時間を設けたことで、メリハリをつけて活動することができた。また、アンケート調査では放課後子供教室に参加することで子供たちの安心・安全な居場所が確保されたと答えた保護者が97.1%となった。
・登録者数は昨年度と比較して微減したものの、登録者の参加率は昨年度より向上し（昨年度比＋1.9%）、参加児童の満足度が高い活動を行うことができた。



子供たちの安心安全な居場所は確保されたか（n=35）

今後の方向性

・スタッフの高齢化により、継続した人員確保が必要となっている。今後も広報紙等による周知や保護者への声がけなどを行い、より多くの地域住民が参画していける体制を整えていく。
・児童のニーズを捉えつつ、地域人材や外部講師、地域資源の活用を図りながらより魅力的で充実した活動を行っていく。
・令和6年度については年間計画の策定からスタッフに関与してもらい、「自分事」として活動に参加する機運の醸成を図るほか、毎回の活動の際にもスタッフが主体的に運営ができるよう促していきたい。また、スタッフ研修会を開催し、人材育成にも力を入れていく。